



こども家庭センターだより

あした

明日もしあわせ通信 (第88号) 令和5年10月号

支援員さんの温かい言葉

伊予市の公立幼稚園・小学校・中学校には、必要に応じて学校生活支援員（以下支援員と言う。）が配置されています。支援員は、教員ではないので授業をすることはできませんが、園生活・学校生活が円滑に送れるように、子どもに寄り添い、声かけや促し、安全の確保等の支援を行います。特に小学校1年の教室では、今やなくてはならない存在です。

幼稚園では自由に遊んでいたのに、小学校に入った途端、みんなと一緒に教員の話聞いて勉強をしなくてはなりません。チャイムの合図で行動の切り替えを要求されます。このような大きな環境の変化に戸惑う子どもも多いのです。そんな時、支援員は、教員と連携し、学習や行動が停滞している子には、個別に声かけをしたり、話を聞いたり、友達との

喧嘩の仲裁をしたり、……。園や学校の優しいお母さんの存在なのです。

「私（支援員）は、お助けマン。困ったことがあったらいつでも言ってね。」

「一緒にやってみようね。」

「こんなにきれいな字を書くことができるのだから、きつとここもきれいに書けるよ。」

「（よい座り方では）手はどこにあったら、花丸かな？」

「悪かったと思ったときに使える魔法の言葉は『ごめんなさい』なんだよ。」……

支援員の温かい言葉は、子どもの心に安心を与え、頑張る力を引き出します。

自分を振り返ってみると、叱咤激励ばかりだったと反省しています。これからは温かい言葉を使おうと心に決めました。 (M. O)

◇教育支援教室「はばたき」◇

「幸せかどうかは、自分次第である。」(アリストテレスの言葉) から思うこと

学校に行けていない（行かない）子どもたちは幸せなのかそれとも不幸せなのかと聞かれたらどう答えられますか。私には答えることができません。幸せ、不幸せは他人が決めることではないように思います。その人自身が心の中で感じたり決めたりすることだと思えます。そして、当人が幸せということについてどう考えているかは育った環境で違うのだらうと思えます。私の幸せ感を持った経験からすると、本人の考え方や心の持ちようで些細なことからも幸せ感を得られたように思えます。なので、子どもたちがちょっとした身の回りの出来事や変化でも幸せだと思えるようになるためには、周りの私たち大人が、成長していく子どもとともに多様な経験・体験をしながら、幸せを感じ伝えていくことも大切なのかもしれません。(M. S)



ヤングケアラーって???

最近、「ヤングケアラー」という言葉を見聞きすることが増えてきました。でも、内容はよく分からない…という人も少なくありません。私もその一人ですが先頃、愛媛県が開催した研修会に参加する機会がありましたので、そこで学んだことなどをお話したいと思います。

「ヤングケアラー」とは、本来は大人が担う家事や家族の世話などを日常的に行っていること（こども家庭庁）。たとえば、次のようなケア（介護や世話）をするこどもたちです。

- ★ 障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。
- ★ 家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている。
- ★ 目の離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている。
- ★ アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している。
- ★ がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている。…など。



こどもが家事やきょうだいの世話をするのは、お手伝いとして当たり前では？とも思いますよね。ですが、ヤングケアラーは本当なら、勉強や部活動に励む時間、将来に思いを巡らす時間、友人との他愛のない時間など、こどもとしての大切な時間を犠牲にしてケアをしているのです。私たち大人が、話すことができずに孤独感やストレスを感じたり、進学や就職が制限されたりするヤングケアラーに早く気づき、声をかけ、手を差し伸べなければなりません。

昨年、愛媛県の調査報告書では小学生から高校生の3,300人余りが、「世話をしている家族がいる」と答えています。皆さんの地域のこどもたちにヤングケアラーはいませんか？（A. F）

《おおぞら通信》 もともと特別な Only one

高知出身の植物博士である牧野富太郎氏の生涯をモデルにしたNHKの朝の連続ドラマ「らんまん」が、9月まで放送されていました。

牧野氏は、日本の植物分類学の基礎を築いた一人であるとともに、「"雑草" という草は無い」という名言を残した人物としても知られています。それぞれに名前のある植物を、人間の望んでいない場所に生えているという一方的な理由で、すべて雑草と呼ぶような傲慢な考え方をするのではなく、どの植物もその土地で一生懸命に生きていることに目を向けるべきだと、言われているように思います。

SMAPの「世界に一つだけの花」にも、同様のメッセージを感じる歌詞があります。

世界に一つだけの花
一人一人違う種を持つ
その花を咲かせることだけに
一生懸命にならばいい

小さい花や大きな花
一つとして同じものはないから
NO.1にならなくてもいい
もともと特別な Only one

開設して5か月目になる「おおぞら」は、「もともと特別な Only one」のこどもたちが、それぞれの花を咲かせるために一生懸命になれるよう支援を続けてまいります。お子様の不登校や引きこもりで、困ったり、悩んだりしている保護者の皆様、まずはお電話でのご相談をお待ちしています。（M. T）

（12時～20時 ☎ 989-5014）

発達支援巡回相談

実りの秋、味覚の秋

猛暑の余韻が残るこの頃ですが、秋本番となりました。今年は豊作でしょうか。新米が楽しみです。お米といえば、白ご飯にこだわりを持つ子どもさんが意外と多くいます。白色がきれいだからとか、白ご飯の味そのものが大好きで他の食材と一緒に口にしたくない、味覚がするどいなどの理由を聞きます。なるほど！とうなずける反面、もっとたくさんの食材、多様な料理を食べて食事を楽しんで欲しいなとも思います。園の先生が、苦手な食べ物をほんの少しだけ子どもさんの口に運び、食べてくれると思いきり笑顔でほめてあげのを見て、感動しています。（K. K）



伊予市こども家庭センター
伊予市尾崎3-1
総合保健福祉センター2階
（電話）089-989-6226